

BiZduino

開発環境構築手順書

最終更新日: 2017/02/15

バージョン: 1.0

(株)ビズライト・テクノロジー

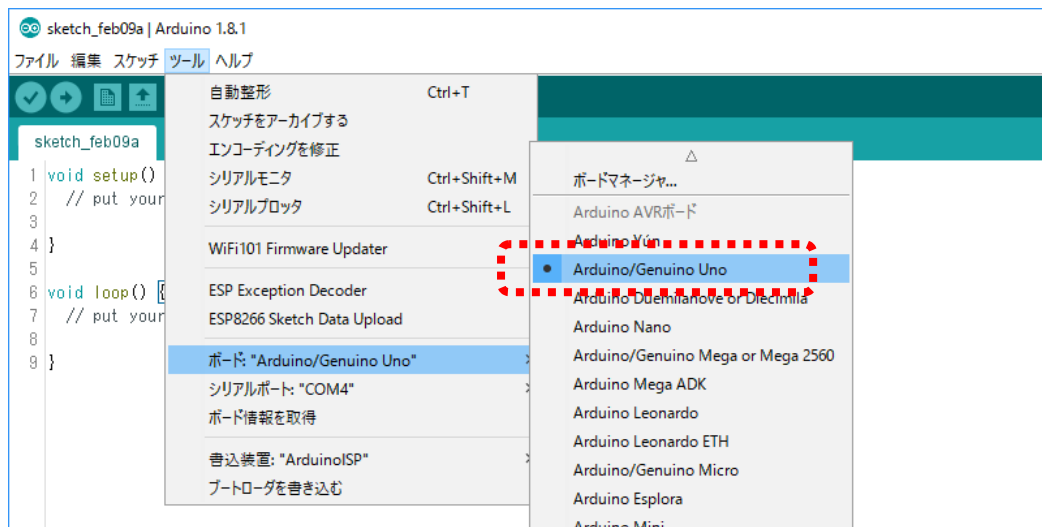


1. 開発環境の準備	3
2. Wi-Fi モジュールへのスケッチ書き込み環境の準備	5
3. 改訂履歴	9

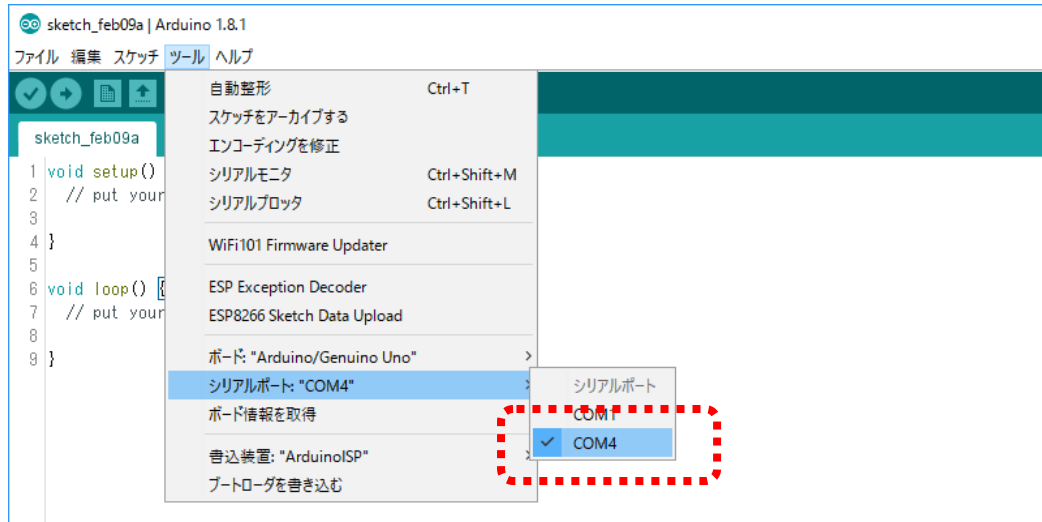
1. 開発環境の準備

BiZduino は Arduino Uno 互換ボードのため、開発環境には Arduino IDE が使用できます。開発環境の準備を以下に記します。

1. 以下の Web サイトから Arduino IDE をダウンロードし、インストールします。
<https://www.arduino.cc/en/Main/Software>
2. インストール後、ArduinoIDE(以下 IDE)を起動します。
PC と BiZduino が接続済みの場合、いったん接続を外します。
3. 次に、BiZduino の JH2 の 7-8,9-10 にジャンパーピンが挿されていることを確認します。確認後、PC と BiZduino を接続します。
4. IDE にて、メニューから、「ツール」→「ボード」で、Arduino/Genuino Uno を選択します。



- 次に、メニューから、「ツール」→「シリアルポート」で、BiZduino を接続したポートを選択します。(COM4 は例です)



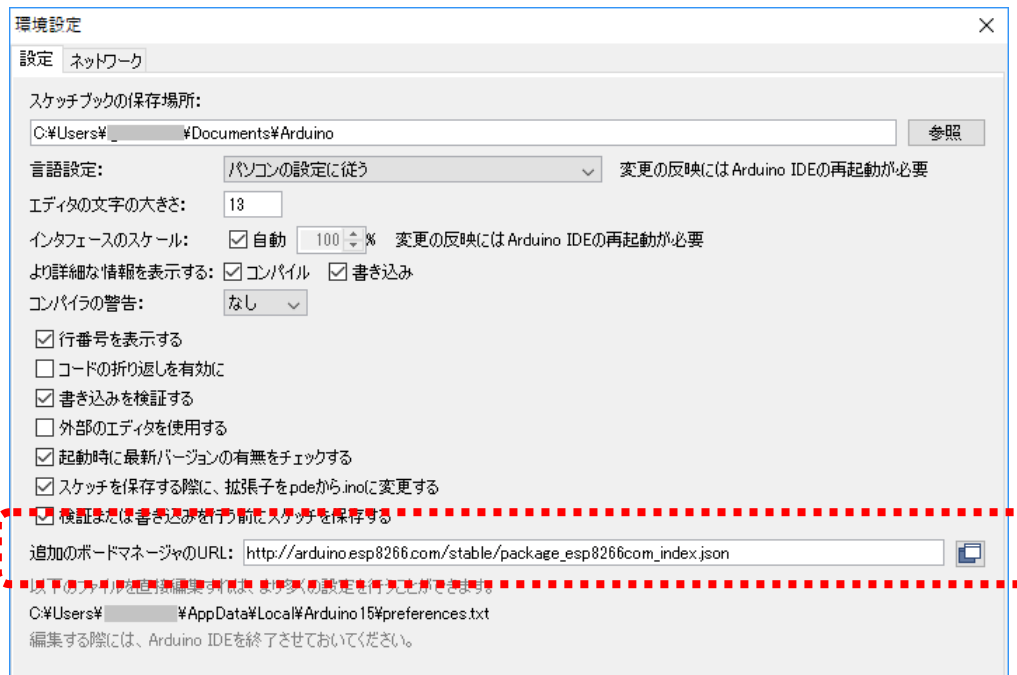
- 以上で準備完了です。

2. Wi-Fi モジュールへのスケッチ書き込み環境の準備

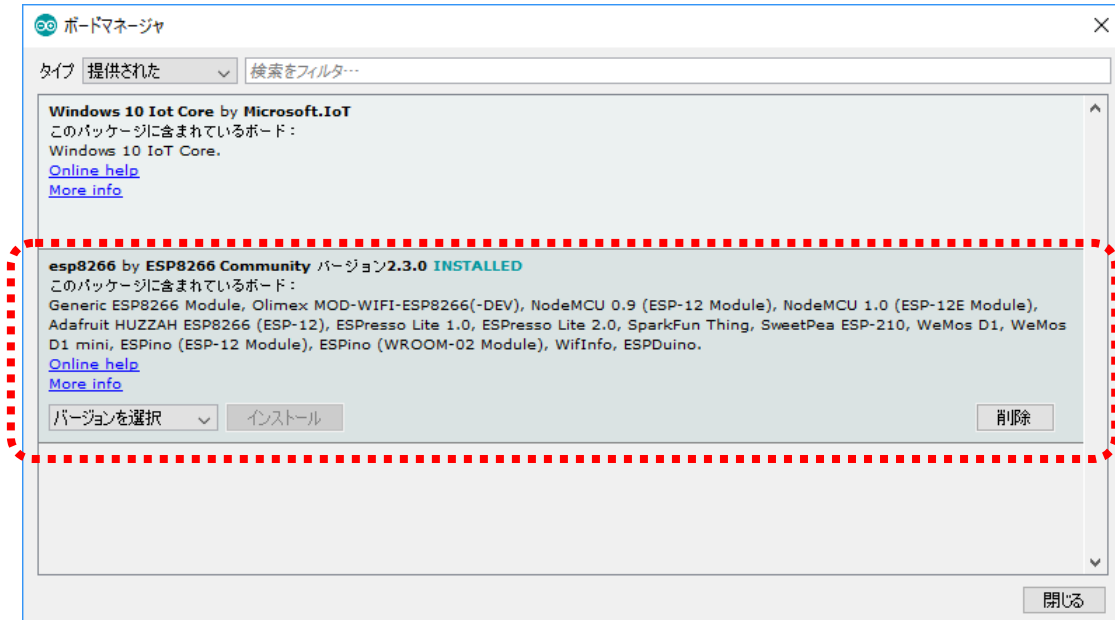
Wi-Fi モジュール ESP-WROOM-02 はスケッチを書き込むことで単独でもマイコンとして動作できます。Arduino IDE でスケッチを作成して Wi-Fi モジュールに書き込むための環境の準備を以下に記します。

※ Wi-Fi モジュールと RTC は接続されていません。

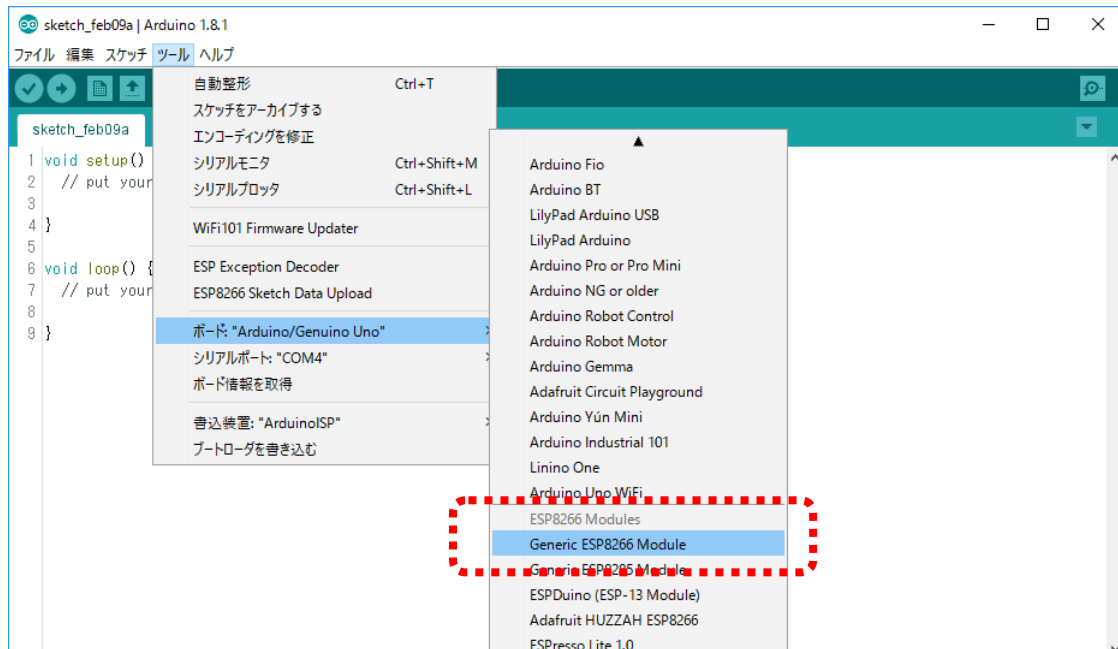
1. Arduino IDE を起動し、メニューから「ファイル」→「環境設定」と進み、設定タブで追加のボードマネージャの URL に以下を追加して OK をクリックします。
http://arduino.esp8266.com/stable/package_esp8266com_index.json



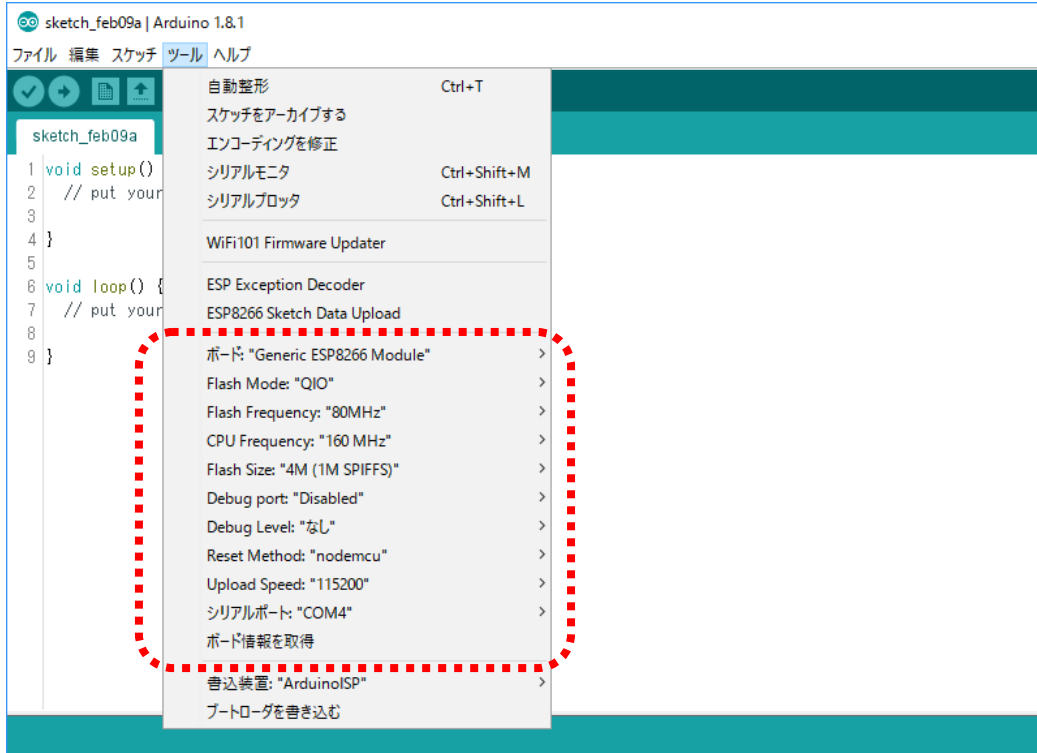
2. 次に、メニューから「ツール」→「ボード」→「ボードマネージャ」と進み、ボードマネージャ内で "esp8266" をインストールします。



3. インストール後、メニューから「ツール」→「ボード」で、"Generic ESP8266 Module" を選択します。



4. 再びメニューから「ツール」を開くと "Generic ESP8266 Module" の設定が表示されるので、以下のように設定します。



ボード: "Generic ESP8266 Module"
 Flash Mode: "QIO"
 Flash Frequency: "80MHz"
 CPU Frequency: "160MHz"
 Flash Size: "4M(1M SPIFFS)"
 Debug port: "Disabled"
 Debug Level: "なし"
 Reset Method: "nodemcu"
 Upload Speed: "115200"

5. Arduino IDE を一旦終了します。
6. 以下の URL から "Exception Stack Trace Decoder for ESP8266" をダウンロードします。

<https://github.com/me-no-dev/EspExceptionDecoder>

※ releases から jar ファイルのアーカイブをダウンロードできます。

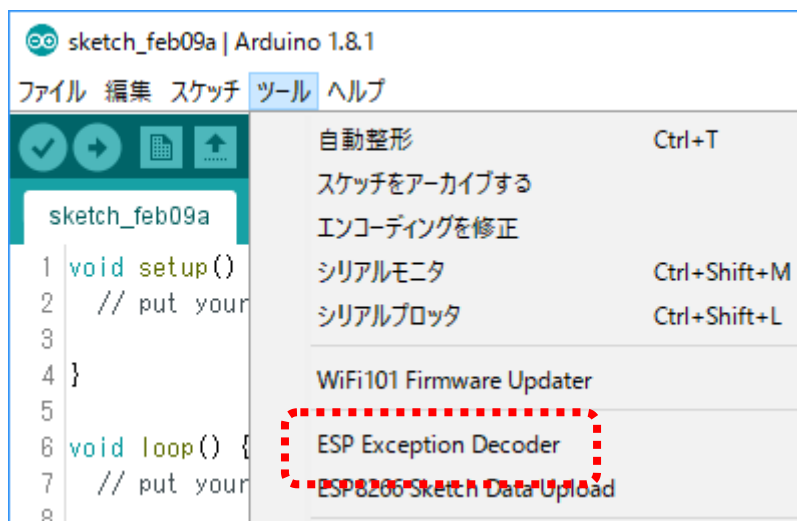
7. Arduino IDE の スケッチブックの保存先に tools フォルダを作成し、ダウンロードしたファイルを以下のように展開します。

ツール展開先: (スケッチブックの保存先以下)

/tools/EspExceptionDecoder/tool/EspExceptionDecoder.jar

※ スケッチブックの保存先は、メニューから「ファイル」→「環境設定」で確認できます。

8. Arduino IDE を起動すると、メニューの「ツール」内に "ESP Exception Decoder" が追加されます。



9. 以上で準備完了です。

3. 改訂履歴

更新日	バージョン	内容
2017/02/15	1.0	初版